

横田基地問題を考える会

ニュース NO.5

連絡先 TEL&FAX 0428-22-6273
「会」のホームページ
yokota-peace.sunnyday.jp

基地撤去への確かな第一歩 “3・20 横田基地もいらぬ！” 市民交流の集い”が大成功

3月24日の「横田基地もいらぬ！市民交流の集い」(福生市民会館小ホール)は、定員以上の265人の参加で大成功でした。(内訳・多摩地区が昭島38、立川35、武蔵村山23、あきる野22、福生22、青梅17など20市2町から計230名、都区内が品川9、新宿6など1

1区から計31名、他県から埼玉2、千葉1) 3人のパネリストによるシンポジウムや4団体からの報告では、基地の実態・米軍と自衛隊航空総隊司令部との合体のたらしめ、のなどが詳しく語られ、さらに会場の質問者とのやりとりで内容が深められる実りのある「市民交流の集い」となりました。

特に、最後の「実行委員会からの提案」

①横田基地の危険性などを知らせ基地撤去の世論を作ろう

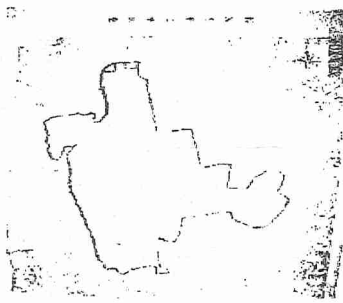
②この「集い」を定例化しよう

③今秋には航空総隊司令部の横田移動反対の大共同行動を

④4月24日の「集い」の運動継続をめざす拡大実行委員会に参加しよう

が、共感を込めた拍手で採択されたことは、画期的でした。

「参加者のアンケートから」
「こんなに思いやり予算が米軍のために使われていると知って、悔しくなりました。誰もが生命をおびやかされないような平和な日

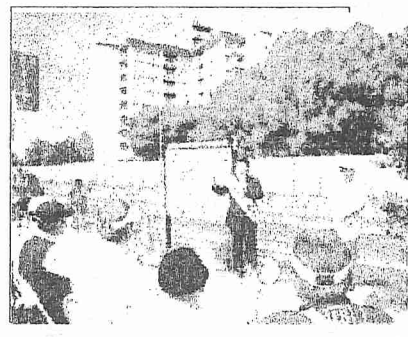


本、世界になることを祈っています。(20歳代)
「このような集いにはじめて参加しました。基地の街にいながら、基地の事はよくわかりませんでした。今日の話を聞いて、目からうろこです。(50歳代)」
「政治的な立場を超えて、基地の問題を学び行動しようという実行委員会の取り組みが、きつと運動が大きく発展するものと期待しております。(60歳代)」
4月24日の「集い」拡大実行委員会には17人が出席して秋の航空総隊司令部移駐反対の大共同行動も、「集い」成功の枠組みを基礎に、自前の力で「カラー」を持った集会にしようなどの意見が出されました。次回の実行委員会は、6月5日(土)、午後1時30分、昭島市の武蔵野会館で行われます。

沖縄と連帯して… 座り込みを

この行動は、昨年4月より毎月第三日曜日に実施されています。

4月24日に昭島で、3月20日のシンポジウムの総括・反省会を行った席で「結局、今後の運動のありかたとしては基地前座り込みに尽きるのではないかと発言した手前、どうしても1回は近所の(横田)米軍基地という日米安保条約の実体と対峙したいと思ひ、初めて参加しました。

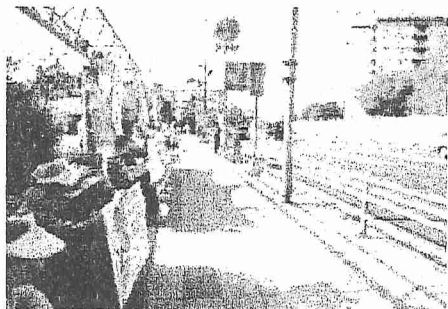


基地のコンクリート壁の前を国道が走り、その国道を挟んだフレンドシップ・パークで当日約70人が参加。快晴の下、日本共産党の小池晃参議員も参加された。当日は沖縄でも基地を包囲する「人間の鎖」行動があり、まさにその沖縄県民の闘いに連帯するという意義を持つ行動

でした(当日沖縄は雨で本土の「くは夜、感動的な現場写真を報じた」)。
ZOO再検討会議・ニューヨーク行動に参加された一人の方は、背負子に固定したのぼり旗(スローガンの表記は漢字だけ)と「ニューヨークでのデモの時の諸動作を再現披露され、まことに痛快でした。

尚、この三多摩地区は反戦平和運動の伝統もあるため、青年層の参加も期待したい。

(後藤 卓美)



「最近の新聞記事
「コーナ」
道路にロープを張った米兵の子を起訴

5月26日付朝日新聞によると、去年8月、武蔵村山市の道路にロープを張ってバイク運転中の日本女性(28歳)を転倒・重傷を負わせた横田基地所属の米兵の子(無職・19歳)は、往来妨害・傷害の罪で地裁立川支部に起訴

された。
事件後、武蔵村山市議会などから、この少年54人の身柄引き渡しを要求する動きがあつたが、米軍側は長期間これを拒否していたため、非難の声があがっていた。

今後とも、少年に対する裁判の経過が注目される。(毛)

昭島市民文化祭「平和展」の企画に参加を!

私たちの「横田基地問題を考える会」は、今年も、昭島市教育委員会など主催の「市民文化祭」の「昭島・憲法を学ぶ会、九条の会・あきしま、昭島母親連絡会共同企画・平和展」(10月中旬下旬に展示の予定)に参加します。

展示場所は公民館の小ホール手前の廊下などで、「考える会」の展示スペースは模造紙大のパネル3、5枚分です。

去年は、北朝鮮のロケット発射事件で果たした横田基地の役割や、自衛隊航空総隊司令部移駐問題などを絵解きました。今年も、もっと多くの会員の力で、会の活動紹介など、より魅力のある展示にしたいと思っております。是非、みなさんの企画からの参加を呼びかけます。

シリーズ 会員インタビュー

初回は、朝日新聞「声」欄に反基地の投書を続ける下村三郎さん（昭島市）にご登場いただきました。



現職の肩書なくなり気楽に新聞に投書

労働者になって半世紀。ズーツと労働運動をやってきました。組合役員の現役を降りてから(5~6年前)、少し気楽な立場で意見を言うてみようかと考え、投書し始めました。

テーマは「労働者の現状と闘い」や「政党選択の問題」などに限らず「駐在所に警察官がない」と言った市民の目線での意見、「電車の中のマナー」などその時々自分が思ったことを投書してきました(最新は5月9日朝日に普天間問題)。

こうした投書に仲間から意見が寄せられるだけでなく、見ず知らずの人からも電話がかかってくることもあります。メーデーなど仲間が集まった時などは冷やかされたこともありましたが。

新聞社は3~4ヶ月に一度しか載せないという内規があり、年に3~4回しか採用されませんが、これからも、思ったことを投書し続けていきたいと考えています。

投書では難しいけど、一番思うのは、労働運動と平和運動の問題。50年ほど前の「横田10万人集会」が何故いま出来ないのか？なんて思っています。

「裁判闘争だけでなく...」と恒常的に横田基地と向き合う団体を目指して
6月27日(午後1時・昭島市民公民館)
「横田基地被害をなくす会」が設立されます

◆横田基地周辺の住民が、基地被害に耐えかねて、国を相手に起こした1976年~1994年の横田基地公害訴訟(第1次~3次)、1994年~2009年の横田基地飛行差し止め訴訟(第1次~2次)、1997年~2007年の新横田基地公害訴訟(第1次~3次)に対して、11回にわたって下

された判決は、「騒音被害は違法状態であるから過去の被害に對して賠償金を支払え。」とはするものの、その原因の除去は飛行差し止めについては、「高度な政治判断はできない。」などの理由で退けて、米軍の違法行為に對して裁判所や日本政府は何の手も打てないという、日本が独立

国であるとは思えないだらきなさを露呈しました。現在、数字的にみれば、横田基地の騒音回数は2/3程度に、ベトナム戦争時の1970年頃と比べれば1/4程度に減少しましたが、本年10月に、航空自衛隊航空総隊司令部が府中から移転し、米軍と手を携えてミサイ

◆これらの経緯を受けて、2009年4月最高裁判決も同年12月に解団を終えた横田基地飛行差し止め訴訟団を中心とする住民は、6月27日、次の運動として、裁判を指すための団体「横田基地被害をなくす会」を立ち上げることにしました。

① 基地被害(騒音、大気汚染、危険や不安など)から周辺住民を守るための運動を行う。具体的には、日本国政府や米軍、周辺自治体への働きかけや基地被害の学習・調査活動を行い、同様の目的を持つ他地域の住民とも連携する。

② ①の実現のためにより多くの被害住民を結集させた裁判を起す。とし、裁判闘争だけに頼らない、継続的な運動体をつくり上げることをしました。

また、「基地周辺」とはいつても、核戦争を想定すれば基地に隣接する地域だけが「周辺」ではありません。横田基地の問題は、日本全体の問題といっても過言ではありません。

① 基地被害(騒音、大気汚染、危険や不安など)から周辺住民を守るための運動を行う。具体的には、日本国政府や米軍、周辺自治体への働きかけや基地被害の学習・調査活動を行い、同様の目的を持つ他地域の住民とも連携する。

② ①の実現のためにより多くの被害住民を結集させた裁判を起す。とし、裁判闘争だけに頼らない、継続的な運動体をつくり上げることをしました。

また、「基地周辺」とはいつても、核戦争を想定すれば基地に隣接する地域だけが「周辺」ではありません。横田基地の問題は、日本全体の問題といっても過言ではありません。

また、「基地周辺」とはいつても、核戦争を想定すれば基地に隣接する地域だけが「周辺」ではありません。横田基地の問題は、日本全体の問題といっても過言ではありません。

「砂川の闘いに学ぶ」映画講演の集い(主催「九条の会」あきしま)に参加して
5月22日、「砂川の闘いに学ぶ」映画と講演の集い(昭島公民館・参加者103名)の第一部での映画「流血の記録 砂川のドキュメント」映像に息を飲みました。砂川町(当時)の120戸の農家と住民、議会、町長、婦人会、消防団とあらゆる団体が団結し、全国の学生、労働者が支援に駆けつけて、基地を拡張しようとする権力側との凄まじい闘争は後世に語り継がれる価値のある闘いであることを改めて認識しました。

第一部は、私たち「考える会」の世話人である島田清作さんの講演「砂川の闘いの今日的意義」でした。砂川闘争に学生時代に参加し、当局と警察権力の凄まじい暴力を目の当たりにした経験から、長い間この砂川の闘いを多くの人に知らせる運動を続けて来たからこそ語れる中身の濃い話を聞くことができました。素手とスクラムだけで闘った非暴力の行動が、全国の共感を呼んだのだと語られました。土地の強制収用は、憲法

28条の「国民の財産はこれを保障する」という条文に違反すること、「土地収用法」は米軍の為に...という文意はないこと、運動のさなか美濃部革新知事が誕生し、一転、収用委員会の見解が変わり、裁判に勝つたことなどが語られました。改めて法律に照らし考えることの大切さと、間もなく行われる国政選挙や来春の都知事選の重要性を実感しました。「僕らはスクラム。殴りつけられ、蹴られ、解かれても解かれても組み直すスクラム」という組曲「砂川」という組曲「砂川」の歌詞を聞いて第一部の映像に重ねて、胸がつまりました。島田さんは、憲法12条に定められているとおり「自由及び権利は、国民の不断の努力によつて保持しなければならぬ」と、沖繩と同じように、何処にも基地はいらないという声を私たちがあげていかなければならないことを強調されています。強く思いました。(井出由美子)

横田基地調査 一日平均飛行回数・一日最大飛行回数

Table with columns for year (2009, 2010) and months (March, April, May, June, July, August, September, October, November, December). Rows show average daily flights and maximum daily flights.

横田基地問題を考える会2009年度(2009.4.1~2010.3.31)会計報告

Financial report table showing income (会費収入, 個人会員60名より 112,000円, 団体会員2団体より 15,000円) and expenses (印刷費・通信費等 42,567円, シンポジウム分担 18,000円, etc.). Total income 160,550円, total expenses 130,567円.